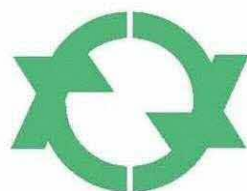


大竹市橋梁長寿命化修繕計画



令和3年3月

令和6年11月 一部改正

大 竹 市

目 次

1. 老朽化対策における基本方針	1
1.1 背景	1
1.2 目的（目標）	2
1.3 基本方針	2
1.4 計画の期間	2
1.5 管内の橋梁箇所数	2
1.6 管理する主な橋梁	4
1.7 点検と診断	5
1.7.1 定期点検	5
1.7.2 健全性の診断	6
1.8 老朽化の状況	7
1.8.1 全管理橋梁	7
1.8.2 市道 2m 以上の橋梁	8
1.8.3 主な損傷事例	9
1.9 修繕等措置の着手状況	10
1.10 対策の優先順位	11
1.10.1 優先順位	11
1.10.2 橋梁の分類(グループ分け)	11
1.10.3 管理水準	12
2. 新技術等の活用方針	13
2.1 方針	13
2.2 目標	13
3. 費用の縮減に関する具体的な方針	14
3.1 方針	14
3.1.1 予防保全型の維持管理への移行	14
3.1.2 集約化・撤去、機能縮小	14
3.2 目標	14
3.2.1 予防保全型の維持管理への移行	14
4. フォローアップ	15
5. 個別の構造物ごとの事項	15

1. 老朽化対策における基本方針

1.1 背景

大竹市が管理する道路橋は、高度経済成長期からバブル期にかけて多くの橋梁が建設されています。今後、これらの橋梁が建設後50年を経過し、急速に高齢化が進行する見込みです。今から適時適切な維持補修を実施しなければ集中的に大規模な補修や架替が必要となり、今後大きな財政負担が必要になると予想されます。



図 1-1 建設年度の分布

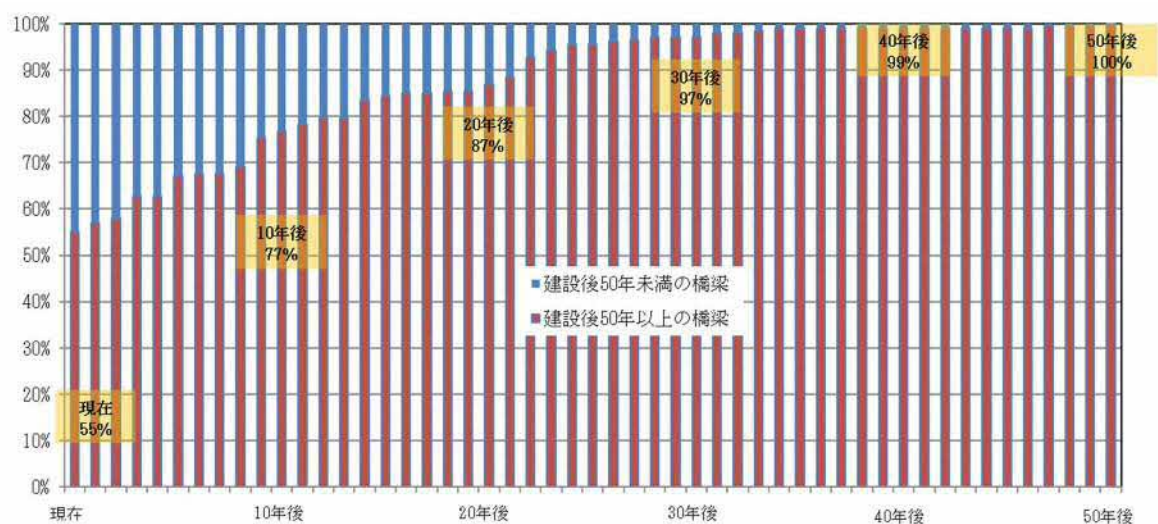


図 1-2 建設後 50 年以上の橋梁数

1.2 目的（目標）

アセットマネジメントの考え方を導入し、従来の「事後保全型の維持管理」から、定期点検により橋梁の状態を把握し、点検結果に基づく補修を計画的に行う「予防保全型の維持管理」を実施することで、橋梁の長寿命化を図り、維持管理及び更新費用等のライフサイクルコストの削減を目指すとともに、道路ネットワークの安全性・信頼性の確保を図ります。

1.3 基本方針

定期点検の点検結果により評価された健全度から修繕が必要な橋梁を優先順位に基づき選定したのち、新技術を活用する等、LCCを含めた費用比較により適切な修繕方法または更新を決定し、修繕等を実施します。

なお、定期点検の結果から、健全度Ⅳと判定された橋梁は、早期に対策が必要なため、速やかに修繕等を実施します。

また、道路利用者および第三者への被害が懸念される損傷が発見された場合には、健全度にかかわらず、速やかに修繕等を実施します。

1.4 計画の期間

橋梁長寿命化修繕計画の計画期間は5年(令和6年度～令和10年度)とします。

1.5 管内の橋梁箇所数

大竹市では207橋梁を管理しています。

上部工の使用材料別にみると、コンクリート橋(PC橋、RC橋)が約73%、鋼橋が約12%、木橋が約1%、石橋が約1%、BOX(溝橋)が約14%を占めています。(図1-3)

また、道路種別ごとの橋梁数を表1-1、図1-4に示しています。

表1-1 大竹市が管理する橋梁数

道路種別	現 況（令和3年3月末現在）	
1 級 市 道	橋 梁 数 38 橋	橋梁数 162 橋
2 級 市 道	橋 梁 数 30 橋	
そ の 他 市 道	橋 梁 数 94 橋	
農 道	橋 梁 数 18 橋	橋梁数 45 橋
林 道	橋 梁 数 11 橋	
里道及び管理道	橋 梁 数 16 橋	

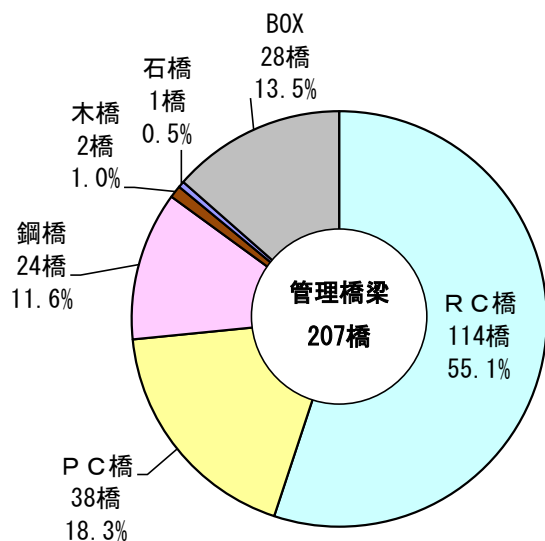


図 1-3 橋種別橋梁数

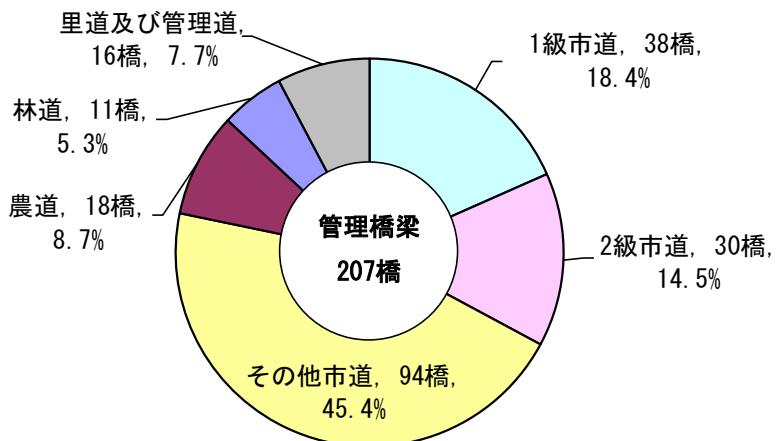


図 1-4 道路種別橋梁数

橋長別に見ると橋長 2m 未満が約 3% (7 橋) を占めています。(図 1-5)

「道路法(昭和 27 年法律第 180 号)第 2 条第 1 項に規定する道路における橋長 2.0m 以上の橋梁」(以下「市道 2m 以上の橋梁」という)は、155 橋となり全橋梁数の約 75% を占めています。(図 1-6)

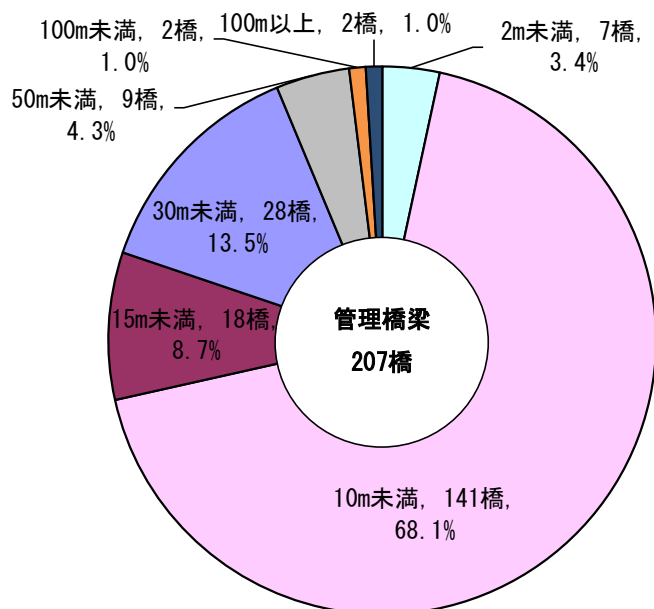


図 1-5 橋長別橋梁数

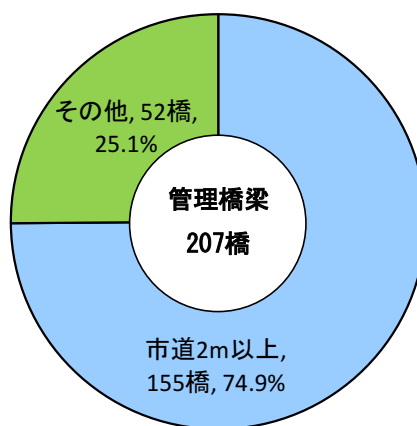


図 1-6 道路別橋梁数

1.6 管理する主な橋梁



栄橋 (PC橋)
L=42.5m 1998年架設



玖波9号線1号橋 (RC橋)
L=66.1m 1985年架設



神田橋 (PC橋)
L=40.1m 1990年架設



城山陸橋 (鋼橋)
L=41.4m 1964年架設



大和橋 (PC橋)
L=107.6m 1997年架設



小島橋 (鋼橋)
L=95.0m 1991年架設



小方橋 (PC橋)
L=24.8m 1982年架設

1.7 点検と診断

橋梁点検は、日常点検、定期点検、異常時点検、追跡調査、詳細調査に分類しています(表1-2)。定期点検(5年に1回の実施を基本)により、橋梁の健全度を確認します。

表 1-2 橋梁点検の種類

点 検	内 容
日常点検	日常パトロールによる簡易点検。軽微な損傷を把握する。
定期点検	橋梁の各部材について点検を行い、橋梁部材の損傷状況を把握し今後の対策を決定するために行われる。5年に1回を基本とする。
異常時点検 (臨時、緊急)	地震時や異常気象等によって橋梁が予期せぬ状況にさらされた場合に実施する。
追跡調査	橋梁にひびわれや塗装等の進行性のある損傷や、橋梁について経時的な変化を確認したい場合に実施する。
詳細調査	定期点検等で異常が見つかった橋梁について、各種試験等を実施して損傷の状態をより精度良く把握するために行われる。損傷の原因を追求して補修・補強工法を検討するために実施する。

1.7.1 定期点検

定期点検は、広島県橋梁定期点検要領に基づいて実施を行います。定期的に実施する点検を通じて橋梁の変状や劣化の兆候を把握することを目的とします。定期点検で実施する点検項目は、橋梁の損傷度を定量的に評価できるものとし、原則として近接目視で確認できるものとしします。

定期点検では損傷状況を定期点検調書に記録し、点検結果に基づいて損傷区分の判定を行います。この損傷区分により維持管理の対策区分を判定し、詳細調査または補修等の判断を行います。



橋梁定期点検状況

1.7.2 健全性の診断

定期点検では、部材単位での健全性の診断を行います。構造上の部材等の健全性の診断は、表 1-3 の判定区分により行うことを基本とします。なお、部材単位の診断は、構造上の部材区分あるいは部位ごと、損傷種類ごとに行います。

道路橋ごとの健全性の診断は、道路橋単位で総合的な評価を行います。部材単位の健全度が道路橋全体の健全度に及ぼす影響は、構造特性や架橋環境条件、当該道路橋の重要度等によっても異なるため、総合的に判断する必要があります。一般には、構造物の性能に影響を及ぼす主要な部材に着目して、最も厳しい評価を道路橋単位での評価としています。

表 1-3 部材の健全性の診断

区分		定義
I	健全	道路橋の機能に支障が生じていない状態
II	予防保全段階	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III	早期措置段階	道路橋の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV	緊急措置段階	道路橋の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

1.8 老朽化の状況

1.8.1 全管理橋梁

定期点検を実施した橋梁(207 橋の内 204 橋)のうち、補修を行う必要ない「Ⅰ判定」が 37%と占めている一方、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である「Ⅱ判定」が 43%ほぼ半数を占め、早期に措置を講ずべき状態である「Ⅲ判定」が 20%占めています。なお、緊急措置を行わなければならない「Ⅳ判定」は 0 橋でした。(図 1-7)

(令和 3 年 3 月末現在)

また、建設経過年数別にみると、建設年次が長くなると早期に修繕などその措置が必要な橋梁の割合が多くなっていく傾向にあります。(図 1-8)

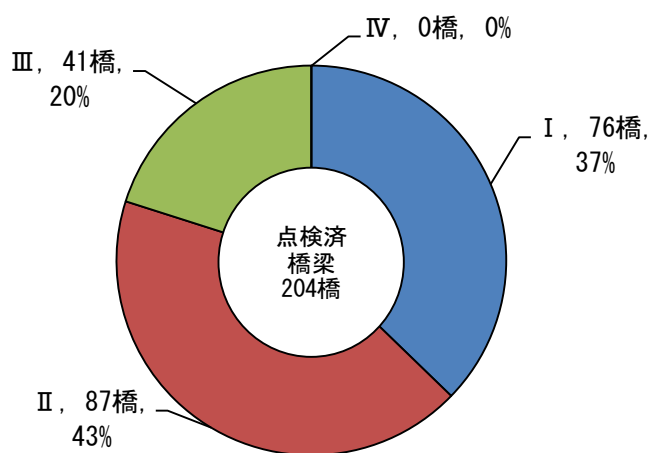


図 1-7 定期点検結果に基づく健全性

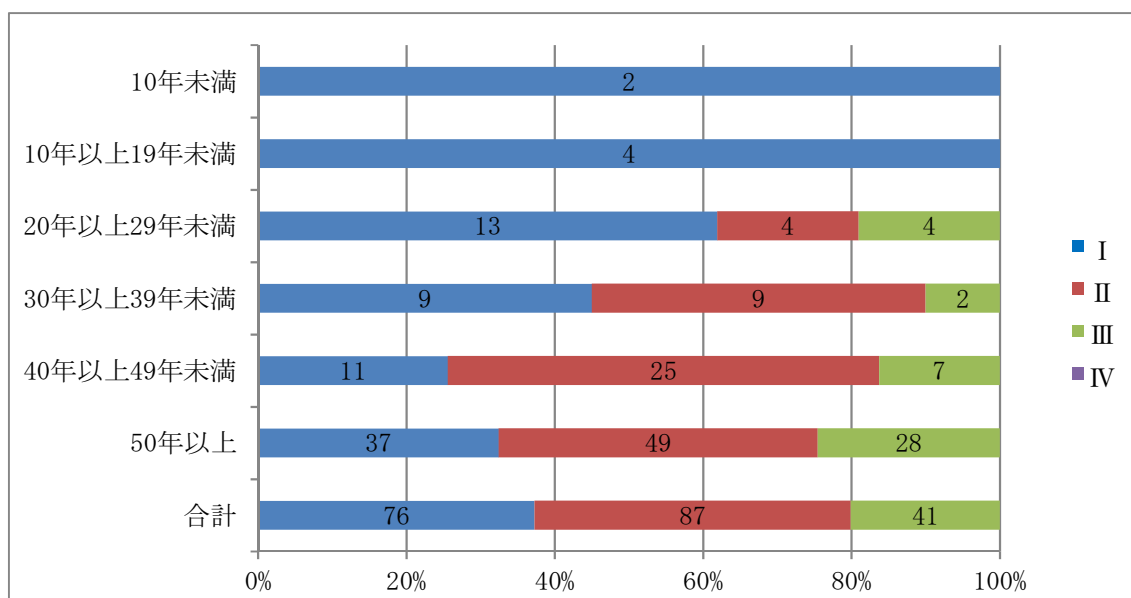


図 1-8 判定区分と建設経過年数

1.8.2 市道 2m 以上の橋梁

定期点検を実施した橋梁(155 橋の内 153 橋)のうち、補修を行う必要ない「Ⅰ判定」が 30%を占めている一方、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態である「Ⅱ判定」が 48%とほぼ半数を占め、早期に措置を講ずべき状態である「Ⅲ判定」が 22%を占めています。なお、「Ⅲ判定」の 34 橋の内 1 橋は補修工事を実施しています。(図 1-9)

また、建設経過年数別にみると、建設年次が長くなると早期に修繕などその措置が必要な橋梁の割合が多くなっていく傾向にあることがわかります。(図 1-10)

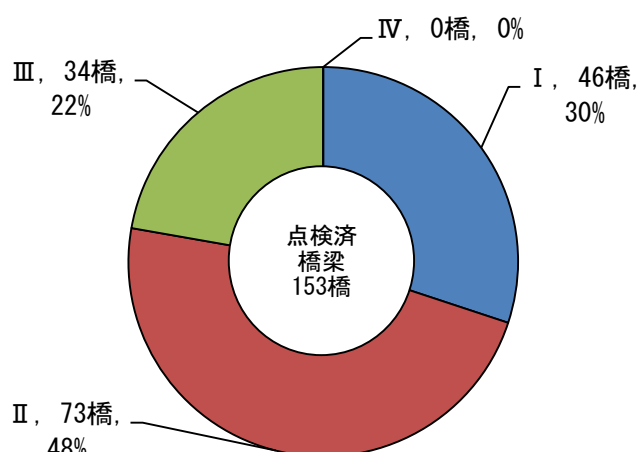


図 1-9 定期点検結果に基づく健全性

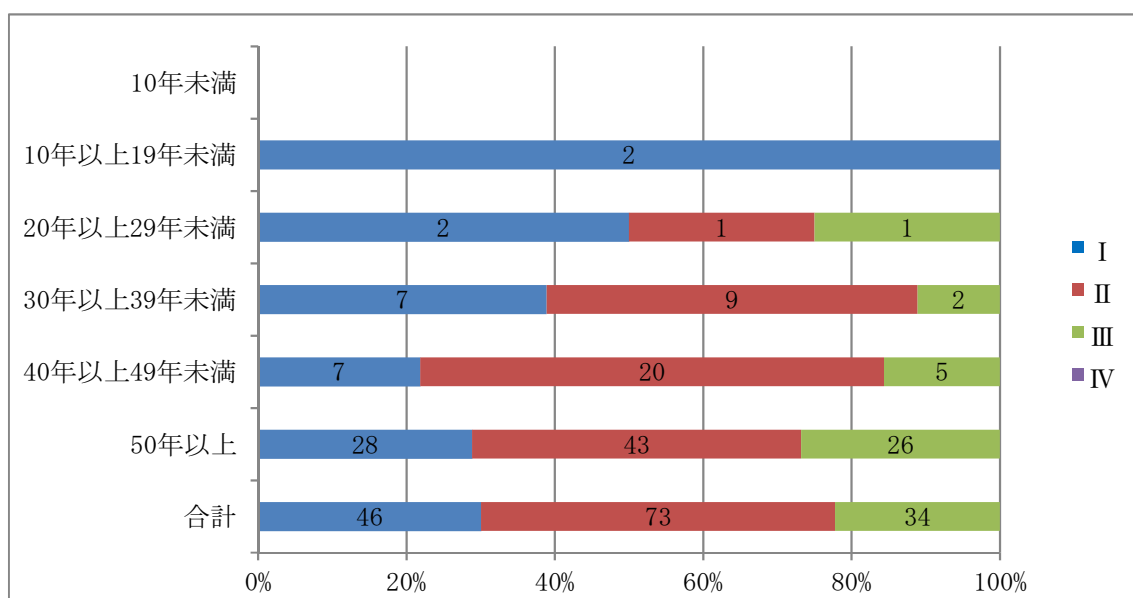


図 1-10 判定区分と建設経過年数

1.8.3 主な損傷事例

大竹市で確認された主な損傷事例は次のとおりです。

主な損傷事例



鋼床版の腐食・欠損



コンクリート床版の鉄筋露出・腐食



主桁の腐食



コンクリートのはく離・鉄筋露出・浮き



橋台のひび割れ・鉄筋露出



支承の腐食

1.9 修繕等措置の着手状況

大竹市で行った主な対策内容は次のとおりです。

【鋼橋：塗装塗替等】



【コンクリート橋：断面修復等】



1.10 対策の優先順位

1.10.1 優先順位

対策優先順位は、以下のルールにより設定します。

- ①管理水準で設定した健全度を下回る橋梁
- ②健全度が同じ場合は、以下に示す管理区分の順
管理区分 グループ1→グループ2→グループ3→グループ4→グループ5の順
- ③管理区分が同じ場合は、以下に示す道路種別の順
道路種別 1級市道→2級市道→その他市道
- ④すべて同じ場合、表1-4の項目に該当する橋梁

表1-4 橋梁優先度

項 目		
バス路線	迂回路が無い	ライフラインの添架

1.10.2 橋梁の分類(グループ分け)

大竹市は、小規模な橋梁から大規模な橋梁、跨道橋、跨線橋など、多様な橋を管理しています。限られた予算でこれらを一括して管理することは効果的でないため、利用者及び第三者に与える社会的影響が大きい橋梁、災害時の安全な通行を確保すべき橋梁、補修工事が大規模・高額な橋梁の場合等、橋梁の重要度や復旧の容易さ等の特性により表1-5のように管理区分のグルーピングを行い、グループごとに管理水準を設定しています。

表1-5 橋梁の管理区分(グルーピング)【全橋梁 207 橋】

		重 要 度		
		跨線・跨道橋 ・渡海橋	1・2級市道	その他道路
復 旧 の 容 易 さ	吊り橋や斜張橋等の 特殊橋梁・長大橋	グループ1 0 橋	グループ2 1 橋(1 橋)	グループ3 1 橋(0 橋)
	橋長が 5m 以上の 橋梁	グループ2 4 橋(3 橋)	グループ3 22 橋(22 橋)	グループ4 76 橋(43 橋)
	その他	グループ3 1 橋(1 橋)	グループ5 43 橋(36 橋)	グループ5 59 橋(49 橋)

※橋長 100m以上の橋梁を長大橋と設定する。

※()内は、市道 2m 以上の橋梁：155 橋

1.10.3 管理水準

管理水準は、予防維持管理、事後維持管理、要監視、定期点検の4通りとしています。
(表 1-6)

- ①健全度Ⅰは、早急に補修する必要がなく定期点検を実施，あるいは要監視
- ②健全度Ⅱ及びⅢは，交通に支障はないが損傷が進行しているため，補修を検討・実施する予防維持管理
- ③健全度Ⅳは，著しい損傷が発生しているため早急に架替え・更新等の大規模補修対策を実施する事後維持管理

表 1-6 橋梁の健全度評価区分とグループごとの管理水準

省令に基づく 健全性の診断区分		健全度	管理水準・目標（維持管理手法）				
			グループ 1	グループ 2	グループ 3	グループ 4	グループ 5
Ⅰ	道路橋の機能に 支障が生じてい ない状態	5	定期点検	定期点検	定期点検	定期点検	定期点検
		4	要監視				
Ⅱ	道路橋の機能に 支障が生じてい ないが、予防保 全の観点から措 置を講ずること が望ましい状 態。	3	予防維持管理 補修検討・実施	予防維持管理 補修検討・実施	予防維持管理 補修検討・実施	予防維持管理 補修検討・実施	定期点検
Ⅲ	道路橋の機能に 支障が生じる恐 れがあり、早期 に措置を講ずべ き状態。	2					
Ⅳ	道路橋の機能に 支障が生じてい る、又は生じる 恐れが著しく高 く、緊急に措置 を講ずべき状 態。	1	事後維持管理 架替・更新などの大規模補修対策の実施				

要監視…必要に応じて追跡調査等を実施し，補修検討・補修等を実施する。

2. 新技術等の活用方針

2.1 方針

維持管理に係るコスト縮減等に取り組むため、2 巡目の定期点検からすべての橋梁で「広島県長寿命化技術活用制度」の登録技術や国土交通省の「点検支援技術性能カタログ（案）」（令和 3 年 10 月）に記載されている新技術、新技術情報提供システム（NETIS）の登録技術等の活用を検討し、コストの縮減を図ります。

2.2 目標

1 巡目の定期点検で橋梁点検車及び高所作業車を使用した橋梁（管理橋梁の約 2 割）については、新技術の活用を重点的に検討し、令和 10 年度までの 5 年間で約 2 百万円のコスト縮減を目指します。

修繕工事においても、コンクリート造の橋梁（管理橋梁の約 8 割）については、コスト縮減が図れる有効な新技術は積極的に採用します。

3. 費用の縮減に関する具体的な方針

3.1 方針

3.1.1 予防保全型の維持管理への移行

事後保全型の維持管理から予防保全型の維持管理に移行することにより，中長期的な修繕費用の縮減を図ります。

3.1.2 集約化・撤去，機能縮小

橋梁については，社会経済情勢や施設の利用状況等の変化に応じた適正な配置のための集約化・撤去，機能縮小を適宜検討します。

3.2 目標

3.2.1 予防保全型の維持管理への移行

今後 60 年間の橋梁維持管理を，事後保全型から予防保全型に移行し，橋梁の長寿命化を図ることにより，約 4 割（約 33 億円）のコスト縮減が見込まれ，ライフサイクルコスト(LCC)が縮減できます。

また，年度毎の維持管理費用を平準化させることで，財政に集中的な負担をかけません。
(図 3-1)

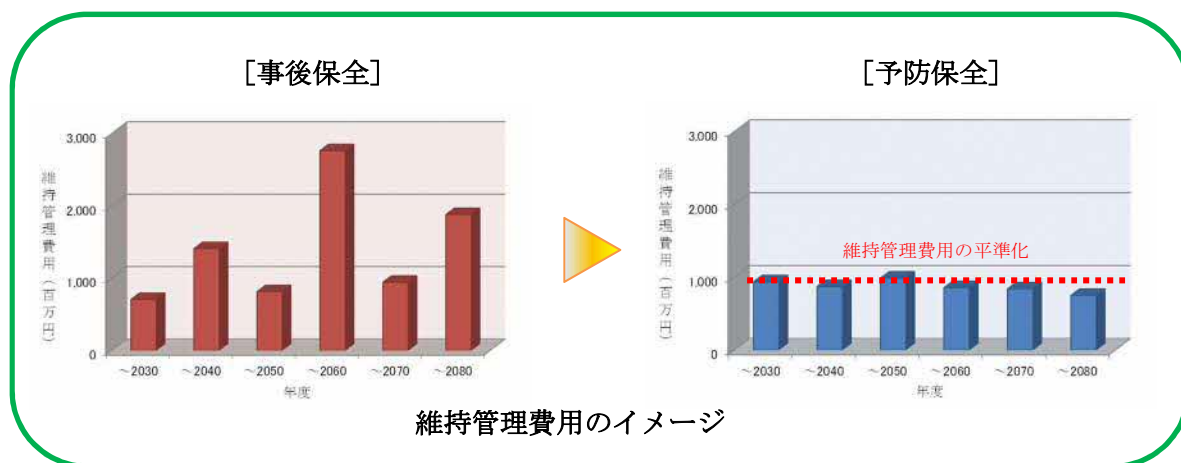


図 3-1 コスト縮減効果グラフ

4. フォローアップ

定期点検により毎年新たに発見される変状に対しては、適宜見直し(フォローアップ)を行います。

また、定期点検結果及び補修工事履歴をデータベースである「アセットマネジメントシステム」に反映させ、適切な施設の維持管理を行います。

5. 個別の構造物ごとの事項

定期点検後の健全度評価、劣化予測、ライフサイクルコストの算定、対策優先順位等を踏まえた大竹市の橋梁長寿命化修繕計画一覧（市道 2m 以上の橋梁）を別表に示します。

橋梁長寿命化修繕計画一覧（市道2m以上の橋梁）

橋梁名	路線名		架設 年度	橋長 (m)	幅員 (m)	橋種	所在地	点検 年度	診断 区分	点検・補修等計画					補修内容 (主な措置内容) 【予定】	備考欄
										●定期点検 ○補修等工事 △調査設計						
										R6	R7	R8	R9	R10		
大和橋	1級市道	東栄中市線	1997	107.6	16.8	ＰＣ橋	本町2丁目	R3	I			●				
北小島大竹港橋	1級市道	北小島大竹港線	1975	15.4	2.6	鋼橋	北栄	R3	II		●					補修済（H29）
小方橋	1級市道	玖波青木線	1982	24.8	15	ＰＣ橋	御園1丁目	R2	III		●	○			ひび割れ注入 断面修復等	R4設計
新町橋	1級市道	飛石黒川線	1970	18.8	4.94	ＲＣ橋	御園1丁目	R2	III	●	○				ひび割れ注入 断面修復等	補修中
湯舟橋	1級市道	黒川湯舟線	1948	15.6	7	ＰＣ橋	黒川2丁目	R2	II	●						
恵川橋	1級市道	明治新開唐船浜線	1929	31.4	6.1	ＲＣ橋	玖波1丁目	R5	III					●		補修済（H29）
大谷橋	その他市道	小栗林4号線	1982	19.8	5.6	ＰＣ橋	栗谷町小栗林	R3	III			○	●		ひび割れ注入 断面修復等	R3設計
前飯谷川橋	2級市道	前飯谷線	1981	15	4.8	鋼橋	前飯谷	R4	I			●				
前飯谷1号橋	2級市道	前飯谷線	1978	18.5	8.32	鋼橋	前飯谷	R3	III			●	△		○	塗装塗替等
登里橋	2級市道	小栗林後原線	1971	25.8	4.7	ＰＣ橋	栗谷町後原	R2	II	●						
御幸橋	その他市道	北栄4号線	1973	14.8	13.46	ＰＣ橋	北栄	R3	I		●					
新御園橋	その他市道	立戸御園1号線	1985	23.3	7.5	ＰＣ橋	御園1丁目	R4	II			●			ひび割れ注入 断面修復等	
御園橋	その他市道	御園2号線	1973	16.9	4.82	ＰＣ橋	御園2丁目	R3	I			●				
枌ノ木橋	その他市道	御園3号線	1970	16.9	4.72	ＰＣ橋	御園2丁目	R3	II			●				
下黒川橋	その他市道	黒川7号線	1968	18.2	6.8	ＰＣ橋	黒川3丁目	R2	II	●						
川本橋	その他市道	玖波21号線	1967	25.2	5.6	ＰＣ橋	玖波6丁目	R2	III	●	○				ひび割れ注入 断面修復等	補修済（R6）
玖波30号線1号橋	その他市道	玖波30号線	1973	27.6	4.8	鋼橋	玖波5丁目	R2	III	●					塗装塗替等	補修済（R3）
八丁川橋	その他市道	八丁2号線	1980	25	6.62	鋼橋	安条	R2	II	●						
栄橋	その他市道	沖/窪1号線	1998	42.5	6.2	ＰＣ橋	栗谷町沖ノ窪	R2	II		●					
大屈橋	その他市道	大栗林小栗林1号線	1935	27	4.4	ＰＣ橋	栗谷町大栗林	R2	I	●						補修済（H27）
能保里橋	その他市道	大栗林小栗林2号線	1946	38	4.5	ＲＣ橋	栗谷町小栗林	R5	II					●		補修済（H29）
黒川橋	1級市道	玖波青木線	1986	19.8	16.8	ＰＣ橋	黒川3丁目	R4	I			●				
飯谷橋	その他市道	前飯谷1号線	1988	23.5	6.7	鋼橋	前飯谷	R2	II	●						
御園出合橋	その他市道	御園1号線	1975	23.8	7.2	ＰＣ橋	御園2丁目	R4	I			●				
玖波9号線1号橋	その他市道	玖波9号線	1985	66.1	7.2	ＲＣ橋	玖波5丁目	R2	I	●						
神田橋	その他市道	玖波9号線	1990	40.1	7.1	ＰＣ橋	玖波5丁目	R2	II	●					ひび割れ注入 断面修復等	
恵川大橋	1級市道	玖波青木線	1990	36.8	16.8	ＰＣ橋	玖波6丁目	R4	I			●				
小島橋	その他市道	東栄6号線	1991	95	4.4	鋼橋	東1丁目	R2	III	●					塗装塗替等	補修済（R5）
向田橋	2級市道	玖波中学校線	1964	27.1	5.78	ＰＣ橋	玖波5丁目	R2	I	●						
向田橋（歩道）	2級市道	玖波中学校線	1964	28.6	1.9	鋼橋	玖波5丁目	R2	III		●	○			塗装塗替等	R4設計
東栄中市線1号橋	1級市道	東栄中市線	1965	3	8	ＲＣ橋	南栄3・東栄2丁目	R4	III		○	●			ひび割れ注入 断面修復等	R3設計
樋門橋	1級市道	東栄中市線	1964	5.6	15.5	ＲＣ橋	西栄2・東栄1丁目	R2	II	●						
東栄中市線3号橋	1級市道	東栄中市線	1968	4.5	17.8	ＲＣ橋	油見2丁目	R4	II				●			
松本裏橋	1級市道	東栄中市線	1968	2.1	6.1	ＲＣ橋	油見2丁目	R5	II				●			
東栄中市線4号橋	1級市道	東栄中市線	1979	2.6	12	BOX	白石1丁目	R5	I					●		
東栄中市線5号橋	1級市道	東栄中市線	1968	2.8	15.7	BOX	白石2丁目・元町1丁目	R5	I					●		
東栄中市線6号橋	1級市道	東栄中市線	1968	2.4	18	ＲＣ橋	本町2丁目	R5	II					●		
大竹港線1号橋	1級市道	大竹港線	1955	4	9.3	BOX	東栄1・2丁目	R1	1	●						
港橋	1級市道	大竹港線	1975	6.7	8.7	ＲＣ橋	東栄1・2丁目	R3	II		●				ひび割れ注入 断面修復等	
南栄大竹港線1号橋	1級市道	南栄大竹港線	1970	2.4	9.2	ＲＣ橋	南栄3・西栄3丁目	R4	II			○	●		ひび割れ注入 断面修復等	R3設計
南栄東栄線1号橋	1級市道	南栄東栄線	1964	2.5	11.7	BOX	南栄3丁目	R2	II	●						
駅前油見線1号橋	1級市道	駅前油見線	1964	3	15.55	ＲＣ橋	新町1・油見3丁目	R2	III		●	○			ひび割れ注入 断面修復等	R4設計
立戸小島新開線1号橋	2級市道	立戸小島新開線	1959	6.5	6.5	ＲＣ橋	東栄1丁目・北栄	R4	I			●				
油見9号線1号橋	その他市道	油見9号線	1979	2.2	3.4	ＲＣ橋	油見2丁目	R5	II					●		
油見13号線1号橋	その他市道	油見13号線	1979	2	2.8	ＲＣ橋	油見2丁目	R5	II					●		
新町1号線1号橋	その他市道	新町1号線	1955	4.7	6.6	ＲＣ橋	新町1丁目	R3	II			●				
新町元町1号線1号橋	その他市道	新町元町1号線	1975	2.5	5.8	ＲＣ橋	本町1丁目	R5	II					●		
東栄2号線1号橋	その他市道	東栄2号線	2004	2.9	5.7	BOX	東栄1丁目	R4	I				●			
極楽橋	その他市道	本町5号線	1960	2.6	2.94	ＲＣ橋	本町1・2丁目	R3	II			●				
本町6号線1号橋	その他市道	本町6号線	1968	2.5	5.7	ＲＣ橋	本町2丁目	R5	I					●		
本町白石1号線1号橋	その他市道	本町白石1号線	1968	2.9	8.2	BOX	白石1丁目・油見1丁目	R5	II					●		
豊年橋	その他市道	本町白石2号線	1938	3.5	5.9	ＲＣ橋	白石1丁目	R2	III	●				○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
本町白石3号線1号橋	その他市道	本町白石3号線	1968	2.5	2.9	石橋	本町2丁目	R5	I					●		
本町元町1号線1号橋	その他市道	本町元町1号線	1968	3.7	3.8	ＲＣ橋	本町2丁目	R5	I					●		
西栄本町1号線1号橋	その他市道	西栄本町1号線	1968	2.5	3.6	ＲＣ橋	本町1丁目・新町3丁目	R5	II					●		

橋梁名	路線名		架設 年度	橋長 (m)	全 幅員 (m)	橋種	所在地	点検 年度	診断 区分	点検・補修等計画					補修内容 (主な措置内容) 【予定】	備考欄	
										●定期点検 ○補修等工事 △調査設計							
										R6	R7	R8	R9	R10			
白石1号線1号橋	その他市道	白石1号線	1955	4.8	4.5	R C 橋	白石1丁目	R3	I			●					
白石2号橋	その他市道	白石5号線	1968	2.2	7	R C 橋	白石1・2丁目	R5	I					●			
白石6号線1号橋	その他市道	白石6号線	1964	2	6.3	R C 橋	白石2丁目	R3	II			●			○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
白石7号線1号橋	その他市道	白石7号線	1964	3.4	8.6	R C 橋	白石1丁目	R2	III	●					○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
白石元町1号線1号橋	その他市道	白石元町1号線	1964	2	3.6	R C 橋	元町1丁目	R3	II			●					
北栄1号線1号橋	その他市道	北栄1号線	1955	7.2	6.2	P C 橋	北栄	R3	I		●						
北栄5号線1号橋	その他市道	北栄5号線	1964	2.8	11	BOX	北栄	R3	I			●					
北栄南栄1号線1号橋	その他市道	北栄南栄1号線	1960	3.6	7.4	R C 橋	西栄1丁目	R3	III		○	●				ひび割れ注入 断面修復等	R3設計
北栄南栄1号線2号橋	その他市道	北栄南栄1号線	1964	2.7	10.9	R C 橋	西栄1丁目	R3	II			●					
大樋筋1号橋	その他市道	北栄西栄1号線	1960	5.1	5.6	R C 橋	西栄2丁目	R2	II	●							
北栄新町1号線1号橋	その他市道	北栄新町1号線	1955	4.1	7.9	R C 橋	油見3丁目	R2	III	● △					○	ひび割れ注入 断面修復等	
西栄21号線1号橋	その他市道	西栄21号線	1970	6.1	8.3	R C 橋	西栄2丁目	R3	II		●					ひび割れ注入 断面修復等	
大樋橋	その他市道	西栄東栄1号線	1978	11.1	4	P C 橋	東栄1丁目	R3	II		●						
西栄東栄2号線1号橋	その他市道	西栄東栄2号線	1964	5.2	6.3	R C 橋	東栄1丁目	R2	III	●						ひび割れ注入 断面修復等	補修済（R2）
本流橋	その他市道	西栄南栄2号線	1955	4.4	10.35	R C 橋	西栄2・3丁目	R2	III	●	○					ひび割れ注入 断面修復等	R2設計
唐樋橋	その他市道	西栄南栄2号線	1955	2.3	11.1	R C 橋	南栄2・3丁目	R2	III		○ ●					ひび割れ注入 断面修復等	R2設計
南栄18号線1号橋	その他市道	南栄18号線	1960	2.5	11.1	R C 橋	南栄3丁目	R4	I				●				
南栄19号線1号橋	その他市道	南栄19号線	1970	2.4	5.7	R C 橋	南栄3丁目	R4	II				●		○	ひび割れ注入 断面修復等	R3設計
南栄東栄1号線1号橋	その他市道	南栄東栄1号線	1975	2.8	3.6	R C 橋	南栄3丁目	R4	I				●				
東栄3号線1号橋	その他市道	東栄3号線	1975	6.5	4.3	R C 橋	東栄1丁目	R3	II		●					ひび割れ注入 断面修復等	
東栄中市線7号橋	1級市道	東栄中市線	1970	2.5	8.1	R C 橋	南栄3丁目	R4	II				●				
西栄東栄1号線1号橋	その他市道	西栄東栄1号線	1984	3.4	5.7	R C 橋	西栄1丁目	R4	II				●				
二井橋	1級市道	元町木野線	1962	4.5	5.8	R C 橋	木野1丁目	R2	III	●						ひび割れ注入 断面修復等	補修済（R4）
加計橋	1級市道	元町木野線	1960	6.3	7.2	R C 橋	元町4丁目	R2	III		○ ●					ひび割れ注入 断面修復等	R4設計
玖波青木線4号橋	1級市道	玖波青木線	1973	4.1	16.7	R C 橋	大竹市	R3	II			●					
玖波青木線2号橋	1級市道	玖波青木線	1970	4.9	16.2	P C 橋	油見3丁目	R2	II	●							
中市立戸線1号橋	1級市道	中市立戸線	1970	4.9	6.5	R C 橋	油見2・3丁目	R4	I				●				R3設計
飛石黒川線1号橋	1級市道	飛石黒川線	1968	2.2	5.6	R C 橋	小方1・2丁目	R4	II			○ ●				ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
立戸山手線1号橋	2級市道	立戸山手線	1979	2.8	6.6	R C 橋	立戸3丁目	R5	II					●			
立戸山手線2号橋	2級市道	立戸山手線	1979	9.1	5	鋼橋	立戸1丁目	R3	II		●						
立戸3号線1号橋	その他市道	立戸3号線	1968	4.7	6	P C 橋	立戸4丁目	R4	I				●				
立戸8号線1号橋	その他市道	立戸8号線	1981	3.9	2.4	R C 橋	立戸1丁目	R5	I					●			
立戸10号線1号橋	その他市道	立戸10号線	1968	2.4	1.9	R C 橋	立戸1・2丁目	R5	II					●			
立戸11号線1号橋	その他市道	立戸11号線	1964	2.5	3.7	R C 橋	立戸2丁目	R2	III	●					○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
立戸14号線1号橋	その他市道	立戸14号線	1984	2.5	6.2	R C 橋	立戸3丁目	R5	II					●			
立戸21号線1号橋	その他市道	立戸21号線	1968	4.1	5.9	R C 橋	立戸3丁目	R5	II					●			
立戸油見1号線1号橋	その他市道	立戸油見1号線	1984	4.2	6.2	R C 橋	油見2丁目	R4	II				●				
寿橋	その他市道	立戸油見2号線	1979	4.1	7.8	R C 橋	油見3丁目・立戸1丁目	R5	I					●			
城山陸橋	その他市道	小方16号線	1964	41.4	2	鋼橋	小方1丁目	R3	III		○ ●					塗装塗替 断面修復等	R5設計
正木橋	その他市道	三ツ石1号線	1964	10.7	4.7	R C 橋	三ツ石町	R2	II		●						
神原橋	その他市道	三ツ石1号線	1973	12	4.76	P C 橋	三ツ石町	R3	II		●						
黒川1号線1号橋	その他市道	黒川1号線	1968	3.7	11.4	R C 橋	黒川2丁目	R5	II					●			
黒川小方2号線2号橋	その他市道	黒川小方2号線	1976	3.5	4.5	P C 橋	黒川2丁目	R5	II					●			
黒川10号線1号橋	その他市道	黒川10号線	1979	2.2	8	BOX	黒川3丁目	R4	I				●				
御園3号線1号橋	その他市道	御園3号線	1968	3.4	9.15	R C 橋	御園2丁目	R4	I				●				
立戸山手線4号橋	2級市道	立戸山手線	1979	2.1	6.1	BOX	立戸3丁目	R5	II					●			
立戸山手線3号橋	2級市道	立戸山手線	1979	2.4	7.5	BOX	立戸2丁目	R5	I					●			
玖波青木線3号橋	1級市道	玖波青木線	1968	2.5	15.9	BOX	立戸2丁目	R3	II			●					
小方20号線1号橋	その他市道	小方20号線	2001	12.5	16	R C 橋	小方ケ丘	R1	I	●							
明治新開大人原線1号橋	1級市道	明治新開大人原線	1960	8.5	2.96	R C 橋	玖波4・5丁目	R2	III	●						ひび割れ注入 断面修復等	補修済（R2）
明治新開大人原線2号橋	1級市道	明治新開大人原線	1975	5.5	2.2	R C 橋	玖波5丁目	R3	II		●					ひび割れ注入 断面修復等	
玖波中学校線1号橋	2級市道	玖波中学校線	1964	3	7.6	BOX	玖波4・5丁目	R2	II	●							補修済（H27）
玖波1号線1号橋	その他市道	玖波1号線	1968	4.8	10.9	R C 橋	黒川1丁目・玖波1丁目	R5	II					●			
玖波3号線1号橋	その他市道	玖波3号線	1968	3.6	6.7	R C 橋	玖波1丁目	R5	I					●			
玖波8号線1号橋	その他市道	玖波8号線	1968	2	2.2	R C 橋	玖波5丁目	R4	I				●				
玖波30号線2号橋	その他市道	玖波30号線	1973	12.5	4.4	R C 橋	玖波5丁目	R1	III	●	○					ひび割れ注入 断面修復等	H30設計

橋梁名	路線名		架設 年度	橋長 (m)	全 幅員 (m)	橋種	所在地	点検 年度	診断 区分	点検・補修等計画					補修内容 (主な措置内容) 【予定】	備考欄
										●定期点検 ○補修等工事 △調査設計						
										R6	R7	R8	R9	R10		
玖波30号線3号橋	その他市道	玖波30号線	1973	12.5	4.4	R C 橋	玖波5丁目	R3	Ⅲ			● △		○	ひび割れ注入 断面修復等	
土石川橋	その他市道	大人原1号線	1950	9.8	6.8	R C 橋	玖波町大人原	R2	Ⅱ	●					ひび割れ注入 断面修復等	
玖波29号線1号橋	その他市道	玖波29号線	1981	10.5	7.1	R C 橋	玖波町	R3	Ⅱ		●					
玖波32号線1号橋	その他市道	玖波32号線	1970	6	5	R C 橋	玖波1丁目	R1	Ⅰ	●						
清水上橋	その他市道	大迫1号線	1945	3.2	4.4	R C 橋	玖波町大迫	R2	Ⅱ		●					
玖波10号線1号橋	その他市道	玖波10号線	1984	5.5	60	BOX	玖波4・5丁目	R3	Ⅰ			●				
唐船浜団地7号線1号橋	その他市道	唐船浜団地7号線	1984	2	5	BOX	玖波町	R4	Ⅰ				●			
唐船浜団地線1号橋	1級市道	唐船浜団地線	1968	2.4	15.1	BOX	玖波町・玖波7丁目	R5	Ⅰ					●		
唐船浜1号線1号橋	1級市道	唐船浜1号線	1979	4	9	BOX	玖波3丁目	R5	Ⅱ					●		
中比作橋	その他市道	比作1号線	1960	10.3	3.6	P C 橋	比作	R2	Ⅱ		●					
前飯谷後飯谷1号線1号橋	その他市道	前飯谷後飯谷1号線	1955	9.4	4.8	P C 橋	前飯谷	R3	Ⅰ		●					
後飯谷1号線1号橋	その他市道	後飯谷1号線	1975	6	7.4	R C 橋	後飯谷	R3	Ⅱ		●				ひび割れ注入 断面修復等	
安条1号橋	その他市道	安条2号線	1979	48	10.7	鋼橋	大竹市	R3	Ⅱ			●				
無名橋	その他市道	八丁3号線	1979	17	5	R C 橋	大竹市	R3	Ⅲ	△		●		○		
小栗林後原線1号橋	2級市道	小栗林後原線	1968	2.6	2.2	R C 橋	栗谷町小栗林	R5	Ⅱ					●		
小栗林後原線2号橋	2級市道	小栗林後原線	1964	3	5.5	R C 橋	栗谷町後原	R2	Ⅲ		●			○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
大迫谷尻線2号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	5	7.1	R C 橋	玖波町大迫	R4	Ⅱ				●		ひび割れ注入 断面修復等	
大迫谷尻線3号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	3.4	9	BOX	玖波町谷和	R4	Ⅰ				●			
大迫谷尻線4号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.3	10.8	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅱ				●	○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
大迫谷尻線5号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.6	3.3	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅰ				●			
大迫谷尻線6号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.2	3.2	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅰ				●			
大迫谷尻線7号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.1	3.2	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅰ				●			
大迫谷尻線9号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.7	5.35	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅱ				●			
大迫谷尻線10号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	4.6	4.3	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅰ				●			
大迫谷尻線11号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	4.2	3.9	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅲ		△		●	○		
大迫谷尻線12号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.9	4	R C 橋	玖波町谷和	R4	Ⅰ				●			
小栗林3号線1号橋	その他市道	小栗林3号線	1950	10.7	3.9	R C 橋	栗谷町小栗林	R3	Ⅲ		●	△		○		
大迫谷尻線13号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2.1	3.2	R C 橋	廿日市市大野町	R4	Ⅲ				●	○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
大栗林小栗林1号線1号橋	その他市道	大栗林小栗林1号線	1984	2.7	4.9	R C 橋	栗谷町小栗林	R4	Ⅱ				●			
大栗林小栗林1号線2号橋	その他市道	大栗林小栗林1号線	1984	3	7.8	R C 橋	栗谷町小栗林	R4	Ⅱ				●			
宮久保橋	1級市道	小栗林浅原線	1994	13.7	10.3	P C 橋	栗谷町小栗林	R4	Ⅰ			●				
小栗林浅原線2号橋	1級市道	小栗林浅原線	1968	3.8	14	BOX	栗谷町小栗林	R5	Ⅱ					●		
大迫谷尻線14号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	2	3.2	R C 橋	廿日市市大野町	R4	Ⅲ				●	○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
大迫谷尻線15号橋	2級市道	大迫谷尻線	1968	6.4	4	R C 橋	廿日市市大野町	R3	Ⅱ		●				ひび割れ注入 断面修復等	
谷尻橋	その他市道	嵐谷奥谷尻線	1964	5.5	5	R C 橋	大竹市	R2	Ⅲ	△	●	○			ひび割れ注入 断面修復等	
落合橋	その他市道	松ヶ原5号線	1970	12.5	4.9	P C 橋	松ヶ原町	R4	Ⅰ			●				
松ヶ原1号線1号橋	その他市道	松ヶ原1号線	1964	8.4	4.6	P C 橋	松ヶ原町	R2	Ⅱ		●				ひび割れ注入 断面修復等	
松ヶ原1号線2号橋	その他市道	松ヶ原1号線	1964	6.4	4.3	R C 橋	松ヶ原町	R5	Ⅱ					●		
松ヶ原2号線1号橋	その他市道	松ヶ原2号線	1945	4.1	4	R C 橋	松ヶ原町	R2	Ⅱ		●					
大畑橋	その他市道	松ヶ原3号線	1945	8.7	4.9	R C 橋	松ヶ原町	R2	Ⅱ		●					補修済（H27）
松ヶ原4号線1号橋	その他市道	松ヶ原4号線	1955	6	3.8	R C 橋	松ヶ原町	R2	Ⅱ		●					
松ヶ原4号線2号橋	その他市道	松ヶ原4号線	1955	2.8	3.7	R C 橋	廿日市市大野町	R3	Ⅱ			●				
松ヶ原3号線3号橋	その他市道	松ヶ原3号線	1979	3	5.5	R C 橋	松ヶ原町	R4	Ⅲ				●	○	ひび割れ注入 断面修復等	R5設計
大竹駅自由通路		新町西栄線	2023	114	4		新町1丁目			●						
中市歩道橋		元町瀬田線	1991	51.9	3.5		元町2丁目					●				
学園歩道橋	1級市道	中市立戸線	1973	31	1.9	鋼橋	本町1丁目	R5	Ⅲ				○	●	塗装塗替等	R5設計
						概算補修費用（百万円）				70	70	70	70	70		

※概算補修費用には、定期点検の費用は含まれていません。
※補修等工事の前には、調査設計を行い詳細な補修方法を決定するため、一覧表の補修内容及び概算補修費用は変更になる場合があります。
※補修等工事の予定橋梁については、今後の定期点検や補修の実施状況、補修技術の進展、財政事情や社会情勢の変化等を反映し、適宜見直します。